

# ひきこもり地域拠点型アウト・リーチ支援・ひきこもりピア・サポーター養成研修

特定非営利活動法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク  
〒064-0824 北海道札幌市中央区北 4 条西 26 丁目 3 番 2 号

## 助成事業の概要

本事業は平成 26 年度厚生労働省「ひきこもり対策推進事業の拡充」に位置づけられる「ひきこもりサポーター養成・派遣事業」に準拠しつつ、北海道特有の広域性を視野に入れた「ひきこもり地域拠点型アウト・リーチ」の有効性に基づく、アウト・リーチのかなめとなりうる「ひきこもりピア・サポーター」養成研修を行なうことを目的として実施した。専門機関や家族会ではなく、ひきこもり経験者の NPO としては全国初の試みであった。「ひきこもりピア・サポーター」養成研修は 2014 年 7 月から 12 月にかけて北海道を 7 ブロックに区分した地域（具体的には旭川市、北見市、釧路市、室蘭市、札幌市、函館市、帯広市）において開催した。総受講者数は 137 名であった。本事業では専門職による地域におけるひきこもりの基礎理解とひきこもりピア・サポーターの役割についての講義のほか、各地域で活動を展開するひきこもり家族会や当事者会の代表者に、地域支援からみえてきたことをレクチャーしてもらおうと同時に、各地域で活躍するひきこもり経験者による体験談発表に加え、当事者経験者、保護者、支援者が偏らずに可能な限り均等配分したグループワークを実施した。

## 事業の成果

道内 7 箇所で開催したひきこもりピア・サポーター養成研修を通して各地で取り組む親の会や当事者会とともに連携しながら、顕在化しにくい地

域課題であるひきこもりについて共有化しともに事業を推進することができた意義は大きかった。特に室蘭市では保健所が後援となり本事業の周知等をきめ細かく行なった結果、養成研修事業では最多の参加人数を得ることができた。また函館市では、2 つのひきこもり支援団体が後援となり、相談機関のスタッフや、ひきこもり当事者にも協力していただいた。このように各地域との協力関係をとることで、ひきこもりピア・サポーターの養成と地域への理解啓発がなされた。

事後評価アンケート調査では全事業を通して好評であった。なかでも「ひきこもり経験者の体験談発表」が高い評価を得ており、専門家の話よりは普段接することの少ないひきこもり当事者の経験談を聴くことで、支援者の思い込みや「ズレ」を解消し、本来あるべき支援のあり方や方向性が見出せたことや、経験者が登壇して人の役に立つこと自体が実はひきこもりピア・サポーターの大きな役割の一つであることが再認識されたことも大きな成果であった。

本事業では各地域のひきこもり経験者にも積極的に協力してもらい、体験談の発表やグループワークにおけるファシリテーターを担ってもらった。彼らの誠実に対応している姿にひきこもり経験値を活かす取り組みの大切さがみえてくる。このような活躍できる場面を地域に整備していくことが、現在悩んでいる当事者やその家族への大きな励みにもつながる。本事業に参加したひきこもり当事者経験者の参加率は結果的に全体の 1 割程度ではあったが、その 1 割の当事者経験者の中から新たなひきこもりピア・サポーターがう

まれる可能性がある」と捉えていくことこそが明日への希望へとつながっていくであろう。

本事業にはひきこもりにかかわる支援者も多く受講していた。支援者もまたどのような支援が適切なのか日々悩みを抱えていることはグループワークでも切実な話題として出されていた。ピア（仲間）な視点からひきこもりピア・サポーターを学ぶ意味において、支援者にとっても新鮮な学びの場になっていた。今後もさまざまな人たちが立場や領域を超えて、常に「当事者性を意識」しつつ、これからのひきこもり支援を構築していくための養成研修会の継続が求められるといえよう。

## 成果の広報、公表

守秘義務などのプライバシー・ポリシーを理解したうえで、「ひきこもりピア・サポーター」養成研修事業を広く理解していただくために北海道内のひきこもり当事者や家族、支援者、一般市民向けの「ひきこもり地域拠点型アウト・リーチ支援・ひきこもりピア・サポーター養成研修事業理解啓発リーフレット」（A4判全8頁フルカラー）を500部印刷製本し、道内の各保健所、地域若者サポート・ステーション、精神保健福祉センター、支援団体機関等を中心に郵送配布したほか、当NPOのホームページ上にもPDF化したファイルを公開し閲覧可能となるようにした。

また、ひきこもりピア・サポーター養成研修事業の受講者には、受講修了書とともに本リーフレットを郵送し、養成研修の振り返りを行なってもらうと同時に今後更にスキルアップを目指してもらうことを促進した。政令指定都市・札幌市では「ひきこもり地域支援センター」が未設置のうえ、「ひきこもりサポーター養成研修・派遣事業」も実施されておらず、今後の動向を踏まえ連携協力していきたい。

## 今後の展開

厚生労働省が示す「ひきこもりサポーター養成研修・派遣事業」の目的には、ひきこもりの経験者（ピア・サポート）を含む「ひきこもりサポーター」を養成し、派遣することにより、地域に潜在するひきこもりを早期に発見し、適切な支援機関につなぐことで自立促進を図ると述べている。これは当NPOがもっとも力を注いできた領域であり、たとえ個人（ミクロ領域）への直接援助が難しくても、悩むひきこもり当事者や家族が多く潜在する地域（メゾ領域）にアプローチすることによって、ひきこもりの課題を顕在化し個人（ミクロ領域）への接近や当事者会・家族会参加（マクロ領域）へとつながる可能性を示唆してきた。

本事業からは今後具体的な「派遣事業」が求められ、とくに今後の展開としては、ソーシャルワーク実践におけるアウト・リーチの方法について検討をすすめ、ひきこもり当事者にとって侵入度の低い絵葉書（手紙）などを活用した緩やかなアウト・リーチを明らかにし、ひきこもりピア・サポーターの重要な働きの一つとしてみていくことが期待される。